

研修名	幼児教育・保育	保護者支援・子育て支援
	令和元年 7月 2日 (火) 10:00～12:30	
講演	「幼児教育・保育と児童福祉の関係性」 『子どもの貧困』に関する対応」	
講師	京都華頂大学 流石 智子 氏	

## 1 講演要旨

### 【幼児教育・保育】

1) 子どもの育ちと環境については、主体者である子どもの表明が難しいからこそ大人によって発達が保障できる環境を用意しなければならない。

① 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領改訂からの3つの要素

- ・ 3歳以上の子どもについては3施設での幼児教育の共通化が大切である。
- ・ 子育て支援については、量と質の向上が大切である。
- ・ 小学校教育との接続についてはどの子にも一定の力をつけておくことが大切である

② 保育所保育の意義とは

- ・ 子どもの成長・発達・生活保障に幼児教育と保育・そして児童福祉が必要である
- ・ 子どもは家庭を中心に生活しているが、親の抱える事情から保育所に子どもを託すことになる。
- ・ 子どもは親や保育所を選択することはできないので、保育、教育、生活を保障することが次代を担う子どもに必要であり、個々を支えるのが保育者のいる保育所である。

### 【保護者支援・子育て支援】

1) 保護者支援・子育て支援における専門職及び関係機関との連携

① 養育支援対象者の把握について

- ・ 乳児家庭全戸訪問事業の実施や連携体制に基づく情報及び関係機関からの連絡通報により対象家庭を把握することが大切である。

② 子どもの家庭支援の施策と事業について

- ・ 地域子育て支援拠点事業として、乳幼児及び保護者が相互に交流を行う場所を開設し子育てについての相談、情報の共有、助言その他の援助を行うものであり、「乳児家庭全戸訪問事業」「養育支援訪問事業」「子育て短期支援事業」「ファミリーサポートセンター事業」「一時預かり事業」「延長保育事業」「病児保育事業」「放課後児童クラブ」などがある。

③ 家庭を支援するためには

- ・ 個々の家庭の現状を把握しどのような問題を抱えているのか。問題解決のための支援とはどのようなものがあるのか考え、活用する機関等、物的資源を理解し活用することが大切である。

#### ④ 子育て支援の考え方

・どの家庭も大小の問題を抱えていると考え、家庭支援は子育て支援であり、子育て支援は家庭支援である。

#### ⑤ 子育て支援の課題への取り組み

・家庭と専門家を結ぶためには保育士の役割は大きくなってきており、それが専門家、保育士の役割であり、保護者支援・子育て支援解決に向けての一步である。

## 2 感想

・幼児教育・保育の意義の研修については、昔から子どもは家庭や地域・社会で育っており、以前は家庭保育を大切にされていたが、今の時代は家庭保育よりも小さいうちからの集団生活の大切さがわかってきたようです。統計でも早いうちから集団に入ることは認知スキル非認知スキルが高くなる可能性があるという聞きました。それは子育ての力を持っている家庭が減ってきているということで、小さい年齢ほど自分から環境の良し悪しの発信が出来ず、子ども自身で生活環境を選ぶことができないので、周りの大人が子どもの生活を保障できる環境を用意することの大切さを感じました。

しかし、集団に入れたら大丈夫というのではなく、集団生活のスタートとなる保育園がその大切さをしっかりと理解し保育士自身も、幼児教育・保育の質を上げることが、子供たちの将来を支えることになるんだという保育の大切さを感じました。

その幼児期に培われた学びは小学校以降の教育の中でも発揮されるため、スムーズに小学校教育へと接続していくことが大切だと感じました。

・保護者支援の研修については、社会情勢の変化なども影響している部分も多いかと思うが、望まない妊娠であったり、育児ストレス・育児ノイローゼ・虐待であったりなど、親になりきれしていない保護者が多く、虐待などの子どもが犠牲になる事件が頻繁に起こるようになってきました。ニュースのような事件は本園にとっては他人事だ、本園は大丈夫だと言っていられない状況になってきているようです。毎日子どもと接している保育士の役割はとても大きい実感しました。問題のある家庭を支援するためには、一家庭だけ、担任だけ、保育園だけで問題解決をするのではなく、しっかりと各機関と連携を取り保護者を支援していくことが大切だと感じました。

(記録 なかすじ保育園 桜井あゆみ)